

一般社団法人 日本医療薬学会
平成 21 年度第 6 回定例理事会 議事録

一．開催日時：平成 21 年 12 月 15 日（火） 14 時 30 分～18 時 00 分

二．開催場所：日本病院薬剤師会会議室

三．出席者

会 頭：北田 光一

理 事：大石 了三、大森 栄、奥田 真弘、草井 章、谷川原 祐介、
林 昌洋、樋口 駿、平井 みどり、望月 眞弓

年会長：佐々木 均

陪席者

事務局：安岡 俊明（日病薬事務局長）、松本 とみ恵、星 隆弘

四．議長：北田 光一

五．会議の成立

定刻において、議長より開会が宣言され、本理事会は理事 11 名の出席があり、定款第 38 条に定める定足数を満たしており、適法に成立している旨報告された。

六．議事の経過の要領及びその結果

1．平成 21 年度第 5 回定例理事会、第 19 回通常総会ならびに第 1 回臨時社員総会の各議事録案の議事録確認

議長より、各議事録について確認の上、追加訂正があれば本会議終了までに申し出いただくよう依頼があった。

2．協議事項

(1) 平成 21 年度認定薬剤師更新結果について

山田(勝)理事より、資料に基づき、認定薬剤師(及び指導薬剤師)の更新申請、指導薬剤師の委嘱申請、研修施設の委嘱並びに更新について、第 3 回認定薬剤師制度委員会(平成 21 年 12 月 2 日開催)における判定結果に係る説明が行われた。

協議した結果、認定薬剤師の更新認定 110 名、認定薬剤師の更新保留 2 名、指導薬剤師の新規委嘱 13 名、研修施設の新規認定 1 施設、研修施設の更新認定 32 施設、また指導薬剤師が不在になった施設の研修施設の認定取り消しについて、全会一致で承認された。

また、認定薬剤師認定者を対象とした年会開催期間中の年会参加証明(署名、会員番号の記入)の受付サービスの廃止について提案された。協議の結果、認定薬剤師更新申請の際に提出される年会の参加証明のほとんどが、年会のネームカードの写であることより、当該証明サービスを廃止することが承認された。

(2) がん専門薬剤師制度に関する件

谷川原理事より、資料に基づき、今回提出されたがん専門薬剤師認定制度規程(案)

及び同規程細則(案)については、厚労省医政局担当者と協議し取りまとめた最終案であること、併せて本規程案の承認された後に、迅速に当該規定のよるがん指導薬剤師の認定申請の受付準備に取り掛かりたい趣旨の説明が行われた。また、本制度を運営するがん専門薬剤師認定制度委員会の委員構成に係る提案が行われ、谷川原理事を委員長とする会員外の特別委員2名を含む全11名となる委員会構成(委員の任期:平成24年3月末日まで)について説明が行われた。協議した結果、全会一致で承認された。

(3) 平成22年度各学会賞候補者に関する件

樋口理事より、資料に基づき、平成22年度の各学会賞(学術貢献賞、奨励賞、論文賞)に係る候補者募集案内を早期に公表し、多くの方から応募があるように対処したいことという趣旨の説明が行われた。協議の結果、原案どおり、全会一致で承認された。

(4) 単位取得の対象となる「抗菌化学療法認定薬剤師認定委員会の指定する関連学会」への参加について

林理事より、資料に基づき、日本化学療法学会が制定した抗菌化学療法認定薬剤師の資格取得要件の1つとなっている学術集会等への参加要件の中で、同学会の抗菌化学療法認定薬剤師認定委員会が指定する関連学会の年次学術集会の一つとして、本学会の年会を指定させていただきたいという許可を求めるお願いである旨の説明が行われた。協議した結果、全会一致で承認された。

(5) 腎機能低下している患者に過剰な投薬を避け、薬剤による副作用を減らすことを目的とした合同検討委員会への委員派遣について

北田会頭より、資料に基づき、日本腎と薬剤研究会会長より日本腎臓学会内の小委員会として発足させる「腎機能低下している患者に過剰な投薬を避け、薬剤による副作用を減らすことを目的とした合同検討委員会」の委員に、本学会からの代表者として特定人物(非理事者)の推薦依頼があったことに関する説明が行われた。協議した結果、理事会への情報のフィードバックの必要性から推薦者は理事会が決めることとし、当依頼が合同検討会から届いた時点で、改めて対応を協議することとなった。

(6) 第4回日本緩和医療薬学会年会ご後援のお願い

山田(勝)理事より、資料に基づき、平成22年9月25、26日に鹿児島で開催される第4回日本緩和医療薬学会年会への本学会の後援依頼についての説明が行われた。協議した結果、全会一致で承認された。

(7) 理事候補者選挙結果に関する件

北田会頭より、資料に基づき、本年10月に実施した次期理事候補者選挙の結果が報告され、15名の当選者リストとともに、今回の選挙で当選した伊吹リン太氏より、職務上の都合により次期理事への就任を辞退したい意向があったことが説明された。

本学会の役員候補者選出規程を改正し、理事候補者選挙による候補者定数に不足が生じた場合の対応として、理事会は不足数を推薦理事候補者数として増やすことができること、また任期途中で退任するような場合には、その補充候補者を理事会が選出できることとする2点の改正案について説明が行われた。協議した結果、全会一致で

承認された。

(8) その他

望月理事より、出版委員会の議事録を基に、出版委員会で計画している図書に係る編集の進捗の報告のほか、著者への執筆料、監修者への謝金、増刷時の印税の取り扱いについて対応の相談が行われた。協議した結果、本日は、初版時の学会、執筆者、協力者へ配分するという大枠の取り扱いを決定し、各者への配分割合等については、今後、出版社の決定や作業の進捗を鑑みながら決定し、理事会へは逐次報告・意見を伺うこととするという取り扱いで承認された。

奥田理事より、この12月より医療薬学誌の受付を電子投稿として受付を開始したことが報告された。続いて、将来的に医療薬学誌のインパクトファクターの取得について、編集委員会で調査した取得条件の概要、他誌の取得状況、本誌が取得する際の課題等について報告が行われた。その第1のステップとして、一定の環境整備を行い、PubMedへの掲載を目指すことについて理事会に意見伺いが行われた。協議した結果、結論が出るに至らなかった。また、特別掲載については迅速掲載を主眼においたものであったことから、電子化に移行することで事務手続き上のメリットは消滅するとして廃止することで了解された。

大森理事より、本学会のロゴデザインについて、第5回理事会の際に協議し、その結果、広報・会報小委員会のWGメンバーで絞り込みを行うこととなったため、同小委員会が絞り込んだデザイン案について協議された。その結果、改めて、全理事に事務局が所有している全デザイン案を提示し、意見を聴取することとなった。

3. 報告事項

(1) 第19回年会報告

佐々木年会長より、10月24、25日に開催された第19回年会の報告として、参加者総数が4564名（招待者約300名を含む）であったことならびに年会の概要の報告が行われた。

(2) 第20回年会準備状況報告

北田会頭より、平成22年11月13、14日の両日、幕張メッセを中心とする会場で開催することが報告された。

(3) 第34～37回公開シンポジウム報告

林理事より、資料に基づき、今年度開催された松山、金沢、仙台、和歌山で開催された4回にわたる公開シンポジウムの報告が行われた。なお、各回の収支報告を鑑み、次回より、公開シンポジウムの開催依頼を行う際に、予め運営費用面での留意点を伝達しておいたほうが、より安定した運営につながるという補足説明が加えられた。

(4) 電子投稿に関する件

協議事項(8)その他で報告済みのため、省略。

(5) 委員会議事報告

認定制度委員会、出版委員会、編集委員会の議事報告については、協議事項の中で報告済みのため、省略。

(6) 平成 22 年度がん薬物療法海外派遣研修員の募集について

北田会頭より、ブリストル・マイヤーズ社より支援を受けて実施しているがん薬物療法海外派遣研修事業について、来年度は今年度の半分程度の予算をご支援いただけるという連絡を受けており、また、今年度は新型インフルエンザによる事業を中止したため、その未執行分と合算することにより、今年度当初の予算額と同規模の予算が確保できる状況にあるため、来年度も当該事業を実施したい旨の相談があった。協議した結果、全会一致で承認された。なお、来年度の当該研修事業に係る研修プログラムの策定は、大石理事が担当することとなった。

以上をもって議事の全部の審議及び報告を終了したので、議長は 18 時 00 分に閉会を宣言し、解散した。